

# 場 所： 岩木山・八甲田山

期 日：2011. 8. 26（金・夜）～29（月・朝）

メンバー：L：橋本 衛、梅田、今野、谷 4名

コース・：8/26（金）：上野 22:00＝（夜行バス）＝

タイム 8/27（土）：＝弘前（7:15）＝（レンタカー）＝岩木山8合目＝（リフト）＝鳥ノ海9:40  
…鳳鳴ヒュッテ…岩木山（10:40～11:10）…鳥ノ海 12:00＝8合目＝弘前  
（弘前城見学）＝青森（旅館泊）

8/28（日）：青森 7:50＝（JRバス）＝ロープウェイ駅（8:45/9:00）＝山頂駅 9:15…  
田茂菴湿原…赤倉岳…井戸岳…大岳避難小屋（11:15～30）…大岳（11:55～  
12:15）…仙人岱 13:00…酸ヶ湯温泉（14:15～16:25）＝（タクシー）＝青森  
（17:15～20:00）＝（夜行バス）＝

8/29（月）：＝上野（6:00）着

## 記 事：

8/27（晴）：早朝の弘前市内からは秀麗な岩木山の全景が眺められたが、すぐに湧き上る雲に頂上は隠されてしまう。閑散とした岩木山スカイラインの70カーブを走り8合目へ。鳥ノ海への高差200m余りは迷わずリフトのお世話になる。

まずは右手、鳥海山の小ピークに登る。ここから鳥ノ海火口の南側を廻るコースもあるが元の道に戻って頂上を目指す。この頃、雲が流れて岩木山頂が姿を現わす。右手に火口を覗きながら大きな岩を廻ると鳳鳴ヒュッテに着く。ここから岩稜の急登が始まる。まず第一オミ坂といわれる岩礫の急坂を登ると小台地に出る。ここに以前は売店があったようだが今は廃材が積んであるのみ。左手から長平コースが合流すると第二オミ坂の急登になる。左側から廻り込むように登ると岩木神社奥宮の小屋が現れ山頂に着く。遠くかすむ陸奥湾や白神山地の山並みを眺めながら昼食。下山にかかると中高生位の団体や親子づれなどが続々と登ってくる。2.5万円で僅か2cm程だが中々キツイ岩稜歩きだった。

帰途、弘前公園に立寄り弘前城を見学した。

8/28（晴）

青森駅前からJR始発バスでロープウェイ山麓駅へ。ゴンドラから眺める樹海の拡がりには圧倒される。山頂公園駅から8の字型の遊歩道の左側を歩き田茂菴湿原へ。花は殆どおわり湿原はホタルイが青々と繁茂していだ。

宮様コースを分け、赤倉岳への登りは、蒸し暑さと昨夜の「じょっぱり」が過ぎたか大汗をかく。登り着いた稜線上にはまだ2つ程小ピークがあるが涼風のプロムナードだ。この辺りからミヤマリンドウやイワブクロが見え始めた。赤倉の頂上に着くと目の前に大岳が迫り、左へ小岳から高田大岳へと続く山並みが素晴らしい眺めだ。平坦な稜線を井戸岳の噴火口を右下に覗きながら進み、荒れたゴロ石の道を急降下して大岳との鞍部に着く。立派な大岳避難小屋の前で少し早い昼食とする。ここから大岳を往復し毛無岱経由で下山の予定だったが、にわかに暗雲がかかり天候が気遣われた為、大岳から仙人岱経由で下山に変更、昼食を早めに切り上げて出発する。大岳の登りはかなりの高度差があるので覚悟して取付いたが、見た目程ではなく30分足らずで登り着く。西側眼下に毛無岱の広大な湿原が広がる。東側にも噴火口があるはずだがガスで隠されていた。南面の降りは火山礫の多い急坂で滑り易い。やっと樹林帯に入るとヤブがかぶっている所が多くなる。樹林帯を抜け、広大な湿原にとび出す。木道の両側にミヤマリンドウやウメバチソウが多い。ここから再び深い樹林帯に入り、ゴロ石とぬかるみの道が果てしなく続く。こんな時間に登ってくる若い外人のパーティと出会い日本語で挨拶。

観光客で賑わう酸ヶ湯温泉に着き、まずは入浴。バス停で戻りのタクシーに誘われ青森へ、駅前で盛大な下山祝いの後、再び夜行バスで帰途についた。